

津波被害の人的被害を抑制する → 迅速な避難

下の文は、12/22（水）の福島民報掲載の記事より部分的にまとめたものです。

12/21、政府は東北～北海道太平洋沖にある日本海溝・千島海溝沿いで、マグニチュード9級の巨大地震が起きた際の被害想定を公表した。被害が大きくなるだろうと思われる様々な条件を組み合わせると最大の被害を想定すると、福島県は最大で津波による死者が約1200人、発生1日後の避難者数が約1万2000人、建物の全壊数は約800棟にのぼると推計した。

特に、冬季は、積雪や路面の凍結などで迅速な避難が難しいことが予想される。また、厳しい寒さのもとでは、身体がぬれたり屋外への避難の場合は低体温症になったり、避難所内での感染症などのリスクが高くなったり、暖房器具による一酸化中毒にも注意が必要。津波の直接被害のほかに、避難生活をおくるうえで様々な健康の被害も想定される。

津波の直接被害を抑制するためには、早期避難を徹底することしかないとのこと。早期避難で被害者を80%減らせるとの試算も出ています。

今回の政府の被害想定について、単に恐れるだけでは何も対策にはなりません。自然災害は防ぐことは難しいですが、人的被害を抑えることは、事前準備と冷静・的確な行動で何とかかなりそうですし、何とかしなければなりません。冬休みは、生徒たちだけで過ごす時間が増えます。ぜひ、家族で防災・減災についての家族の話し合いを持っていただければと思います。

【最低限度、家族で決めておく必要があると思われることの一例】

1 どこに、どのように避難する？

- ① 近くに津波から逃れられる高台などはあるか？
- ② 車での避難は道路の破損や渋滞で難しい場合があるかも、歩いて避難できる場所は？
- ③ 高齢者や小さな子はどうする？
- ④ 子どもだけの時はどうする？

2 家族などとの連絡や安否確認はどうする？

- ① 家族が違う場所にいるときに災害が発生した場合、どこに、どのように避難するか、家族それぞれがわかっている？
- ② 携帯電話がつかないことが十分予想できる。災害伝言ダイヤルなどは知っている？ 連絡がつかない場合の家族間の約束は？
- ③ 隣近所の方々との協力はできる？

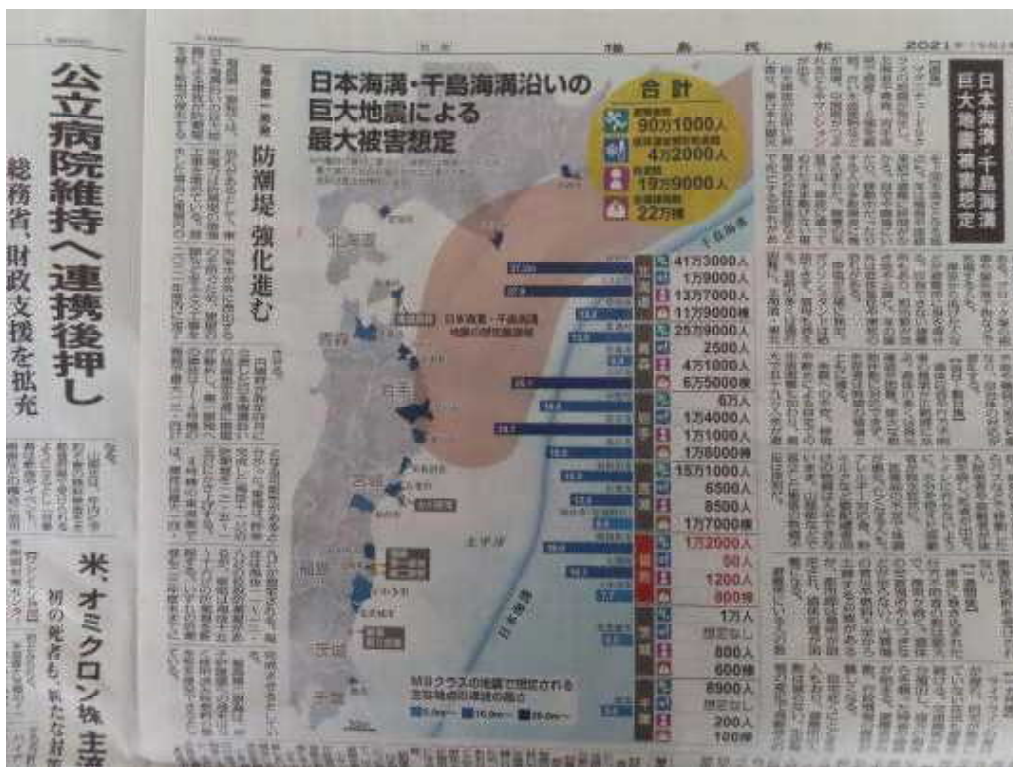
3 最低限に絞るとしたら、何を準備しておくか、持ち出すか？（1つの例として）

- ①履き物 ②衣類・防寒着 ③手袋 ④携帯電話・スマホと充電器、モバイルバッテリー等
- ⑤身分が証明できるもの ⑥ある程度の現金、カード、通帳や印鑑など ⑦服用している薬やお薬手帳
- ⑧眼鏡やコンタクト ⑨避難するときに重くない程度の水 ⑩カロリーがあり、コンパクトで、そのまま食べられる食料 ⑪ナイロンのゴミ袋 ⑫タオル ⑬ティッシュ類
- ⑬懐中電灯 ⑭必要な物を詰め込み持ち運びできるリュック、バック

※ 最低限必要なことは何か、ということ話し合い、準備しておくことは大切だと思います。家族間のつながりと準備は、被害を最小限に食い止める力になりますね。

12/22(水)の新聞やネットニュースなどを読んでみてください。情報を得ることはとても大切です。同時に、ネットの書き込みなどにあるような、定かではない情報や極端な情報の場合には、受け取る側の冷静な判断が必要です。

10年前に大きな被害を受けた豊間中学区は、他の地区よりも津波被害への意識は高く、より切実なことではないかと思えます。



米、オミクロン株 初の死者も 新たな対策